

季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第四六六号）

立夏^{りっか}

五月五日

お木曳、始まる

暦の上の夏、立夏となりました。内宮前のおはらい町では、盛んにツバメが飛び交います。民家の軒などに作った巣づくりをしているところでしょうか。ツバメは繁栄の象徴ともいわれて、町の人々に大切にされています。赤福本店にはこんな句碑もあります。

巣燕も覚めりて四時に竈焚く 山口誓子

本店で竈に火を入れる早朝、巣にいるツバメたちも見守るかのように、ごそごそと動いていたのでしょうか。

伊勢の五月。神宮式年遷宮^{しきねんせんぐう}にちなむお木曳行事^{きびき}がいよいよ始まります。伊勢市内に結成された七十二の奉曳団^{ほうえいだん}は、浜参宮や町内曳などを行い、本曳に備えてきましたが、今月九日から六月十三日までの土日曜、外宮へご用材を曳き込むお木曳^{おかびき}が行われます。陸曳は宮川から県道伊勢南島線を通り、外宮の北御門^{きたみかど}口に至ります。道中はエンヤの掛け声や木遣り、奉曳車のワン鳴りの音が鳴り響き、お祭り一色になります。全国からの神宮崇敬者による特別神領民^{しんりょうみん}の奉曳（金曜）も含める二十一日間になります。

もともと式年遷宮は国家の事業として行われ、近隣諸国から「役夫^{やくぶ}」が集められ、造営工事をしていました。しかし室町時代、役夫が集まらなくなり、式年遷宮も二十年という式年が不可能に。百年以上にわたり中断されることもありました。その頃から、神宮のお膝元の神領民が重い御用材を運ぶ奉仕を行うようになったのがお木曳行事の始まりです。

江戸時代には、奉仕が地域をあげての大きな行事として定着していきます。明治時代には一時、その奉仕が不要となりますが、地元からの請願により引き継がれ、今では伊勢市指定無形民俗文化財の伝統行事として行われています。伊勢神宮への奉仕に基づくお木曳、伊勢神宮と伊勢市民がもつとも近くなる時でもあります。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○ 夏の風物市

夏の訪れを感じる品々が並ぶ「夏の風物市」。

見た目も涼やかなガラス風鈴や、澄んだ音色が人気の南部鉄風鈴、華やかでモダンな色彩の扇子、贈り物の包みにも人気の風呂敷、そして見た目の涼しさはもちろん、肌にもやさしく心と体を包み込む藍染の商品など、夏が待ち遠しくなる品々を揃えました。

日本の夏を、見て・触れて・感じるひととき。

暮らしに涼を添えるお気に入りや、ぜひ見つけてください。

日 時／5月14日(木)～5月24日(日) 10:00～17:00

場 所／赤福 本店別店舗

○ みそか寄席

毎月末日の「みそか」に合わせて、江戸の趣きを感じる「すし久」2階大広間にて開催される落語会。平成3年6月から始まり、多くの人に愛され、今年6月、おかげさまで35周年を迎えます。

幅広い活躍で芸術推奨文部大臣新人賞を受賞した、地元松阪出身の桂文我師匠を中心に、中堅・若手の新家が多数出演。1日2回公演で、これまでに延600人が1,000余話公演しています。

5月は、桂文我氏、桂米平氏、月亭秀都氏の3名をお迎えしてお送りします。

笑いの一夜をお過ごしください。

日 時／5月31日(土)

一部 16:00～(受付15:30～)、二部 19:00～(受付18:30～)

場 所／すし久2階

出演者／桂文我、桂米平、月亭秀都

木戸銭／前売り券 2,500円(税込)、当日券 3,000円(税込)

※前売りで定員になった場合は、当日券の販売は行いません。

お問い合わせ/おかげ横丁総合案内「おみやげや」電話0596-23-8838

五十鈴塾

○ 三重の仏像～ここだけの話～

近くに京都、奈良、滋賀という仏像のメッカがあるので目立ちませんが、実は国の重要文化財の仏像は全国9位という三重県、瀧川先生は40年近く調査活動を続けてこられました。その間にいくつかの新しい作例が発見されるなど三重の仏像は充実してきました。例えば松阪の安楽寺に伝わった阿弥陀如来立像と地藏菩薩立像、平成21年の調査で「快慶作」と判明し、令和6年に国の重要文化財に指定。このように新事実が分かったことを中心に、まさに「ここだけの話」を語っていただきます。

日 時／5月11日(月) 13:30～15:00

講 師／瀧川 和也(三重県総合博物館 学芸員)

参加費／一般 1,600円 会員 1,100円

場 所／五十鈴塾右王舎

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 五十鈴茶屋節気菓子

す
菓 つばめ

今年も軒先に燕が巣を設ける季節になりました。黄色のくちばしを広げ、親燕の帰りを待つ赤ちゃん燕。そんな風景を、お菓子のかたちに残しました。可愛いくちばしはレモンです。

じんぐう ばら
神宮の薔薇

神宮会館が建つ丘は、雪の如く咲く花に例えて「如雪園」と呼ばれていました。今では百五十種四百五十株の花々が美しい「神宮ばら園」となっています。葛寒天を花びらにし、白あんを包んだばらの姿をお楽しみ下さい。

ナンジャモンジャ

外宮・勾玉池のほとりに咲くヒトツバタゴの木。別名をナンジャモンジャといい、緑と白のコントラストが見事です。白く細やかな花々を山芋を使ったきんとんで表現しました。